野生の王者 恋姫に……

貧弱戦士

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

野生の王者 恋姫に……

【Nコード】

N9425Y

【作者名】

貧弱戦士

【あらすじ】

ルパン三世の仲間の一人、『神川 十代』という青年が居る。彼は子供時代から過酷な体験をし、いつしか裏世界でも有名な存在となっていた。ルパン達といつものようにお宝を頂戴している所、その中には鏡があった。それが不思議と思ったルパン達はその鏡を覗き込んだら……

プロローグ

『ウー！！ ウー！！』

ブザーが鳴り響くこのフロア。壁は赤くなり、外も騒がしく鳴り出す。だが、これはただの誤作動では無い

このフロアは美術館で、世界から取り出した高級品の作品がいくつかある

だからこんな所に防犯装置が誤作動なんて滅多には無いだろう。じゃあ何故鳴り響いているのか？ 簡単な答えだ

いわば、作品を盗んだからだ

じゃあ誰がってなるだろ？ そうだろ？ それも簡単だよ

十代「俺達だよ！！」

防犯カメラに向かってピースサインをやりながら、そう宣言する。うん、最高に決まったな

片手に持っている箱の中には、美術作品が大量に入っている

不二子「ちょっとお！ もたもたしないで退散するわよ！！」

ライダースーツでお色気がある女性は、峰 不二子という人だ

スタイルもよく髪もロングな魅力で済ますほどの女性だが、中身はただの悪魔だ。いや、悪女とも言える

俺達とツルんでいるが、実際裏切りが多い人物だ

大介「糞！！ もう来やがった！！」

五エ門「走るぞ」

上からダンディーな男性は、次元 大介。凄腕のガンマンだ

あのルパンだって認める、銃の腕前で頭もよくキレル……性格はツンデレだ

そして石川 五エ門。有名な名刀、斬鉄剣を一番使える侍だ。鉄を何でも斬っちゃうから、ルパンに気に入られている

そしてツンデレだ

大介「オメエ、今なんか変な事考えてなかったか」

五エ門「斬るぞ」

十代「いえ、何にも。僕ちゃん全然わかんない」

ちっ、勘が鋭いな……日夜ハードを過ごしているわけだ

『ドン！ バン！ バキューン！』

走りながらも銃弾を避け続ける皆様。え？ 俺か？ 俺はアレだ
……うん

ルパン「いいよなお前は。銃弾何か屁でも無い何てよ。全く、
どんな化け物よ」

十代「こんなん！」

ルパン「そうそうそんならうつよー!」

『バン!』

警備員「ぐっ……!」

だって別に痛くないし、へっちゃらですよはい! 自慢じゃないけどね……はは

ルパンは後ろを振り向いて瞬時に愛用のワルサーP38を使い、警備員に当たった。なんつー集中力なこと

おっと! そういえばルパンの紹介してねーな。名前はルパン三世

こいつの先祖様達はすごい泥棒で、今じゃコイツが三代目らしい。実際、何者が全然わからねえが

だが頭を良い。実際、認めたくはないが天才だ。だからリーダーなんだよ、俺等のさあ

ルパン「よーし! そのガラス窓に突っ込むぞ!」 十代、ちゃんとお宝ちゃん持つとけよ!」

十代「ああ」

大介「この窓はたしか防犯用だ!! そんなじゃそこらのじゃ割れ

ねえぞー!!」

ルパン「んじゃあ五エ門ちゃんに「五エ門は手が一杯だそうだ」」

五エ門はこちらに来る銃弾を全て防いでくれているようだ。もし止めたら俺達は天国へランデブーだろう

あ、俺は大丈夫だったわ

不二子「十代!! アンタが突っ込んで割んなさい!!」

十代「いや、そりゃあ俺はそういうのも大丈夫よ!? けどもうちよっと思いやりとか……」

ルパン「行けー! 十代! お前なら出来る! この俺様が言っているんだから!」

十代「よ、よっしゃー!! 行ってやる……………その前に準備運動を」「」「はよ行け!!」「」「ドン!」ああ、行ってきまゝす!」

皆! 何もかも、準備が必要だから! 俺の真似はしないでね?

ルパン達に押され、そのままガラス窓へと突っ込んだ俺。そして

衝突まで3、2、1……

『パリーン!!』

ルパン「よっしゃ！ 飛び込みぜ！」

窓は粉々に割れ、そのまま地面へと降りていった俺達

『ドド』

十代「痛つて〜!! 若干ケツ割れた……」

五エ門「元からでござろう」

大介「ボケる時間なんてねえ!! ズラかるぞ!!」

ああ、マジで割れた……元からか

足音を消し、茂みへとだんだんと進んだ。これで追っては来ないだろう

そうだ、自己紹介してなかったな!!
俺は神川 十代だ!!
以後、よろしくう!

プロローグ（後書き）

感想をください！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9425y/>

野生の王者 恋姫に.....

2011年11月28日02時56分発行